

第13回インフラツーリズム有識者懇談会 資料



1. モデル地区の取組状況
2. インフラツーリズムのさらなる拡大に向けて
3. 今後の予定等について

1. モデル地区の取組状況

1. モデル地区の取組状況ーこれまでのモデル地区と概要ー

あまがせ

天ヶ瀬ダム【京都府宇治市】

- ・宇治市街地に近接
- ・立地を活かし、観光協会と連携したツアー造成、淀川水系支流の高山ダムとの組み合わせなど広域連携モデル ※モデル地区選定時
- ・観光協会が中心となった受入体制や、団体向けの体験会コンテンツの販売等を実施



つるだ

鶴田ダム

【鹿児島県薩摩郡さつま町】

- ・九州最大の重力式コンクリートダムで水位低下時には明治期の発電所遺構が出現
- ・霧島連山や桜島等の広域周遊モデル
- ・河川空間のオープン化や体験会の休日受入の開始等、受入体制構築等が完了



しんくさがわほうすいろ

新日下川放水路

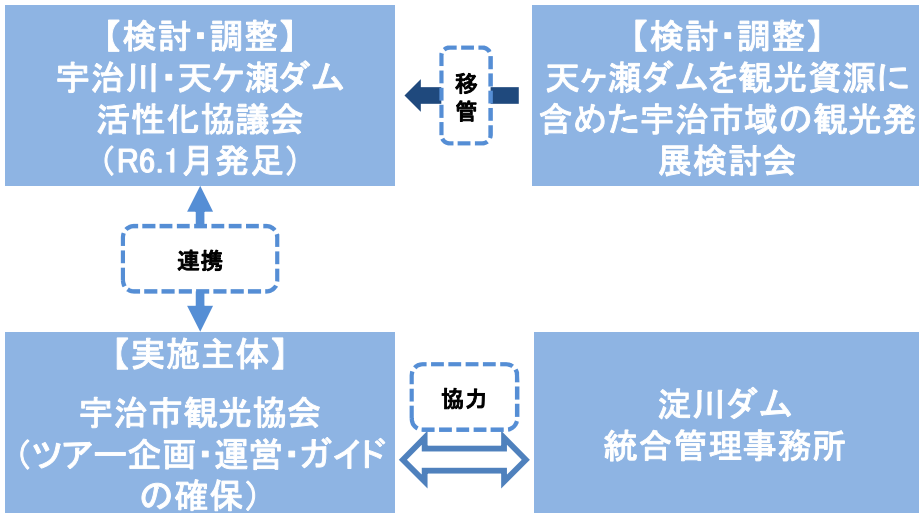
【高知県高岡郡日高村】

- ・仁淀ブルー等の観光資源との連携を進めるとともに、工事現場の見学を通して、放水路、調整池等のインフラ施設と水害の関わり、歴史を紹介・学習する工事段階から管理段階への移行モデル。
- ・R5.5月に放水路トンネル部の工事が完了。河川空間のオープン化に向けた体制構築や高付加価値コンテンツの新規造成を行う。



1. モデル地区の取組状況－天ヶ瀬ダム－

体制・運営スキーム



これまでの実施スケジュール（抜粋）

- モデル地区採択（令和元年7月）
- 協議会の立ち上げ：R1.7～R2.3
 - 戦略の策定：R2.4～
 - 運営体制の検討及び構築：R2.4～
 - コンテンツの検討及び地域観光資源の活用：R2.4～
 - モニターツアー等の実施：R3.3及びR4.2
 - 旅行商品の造成：R3.4～
 - 販売戦略の構築：R3.4～
 - 河川空間のオープン化の準備・手続き：R5.4～
- 令和元年度
- ・（11月・3月）現地協議会の実施
 - ・（11月）モニターツアーの実施
- 令和2年度
- ・（12月・3月）現地協議会の実施
- 令和3年度
- ・（11月・3月）モニターツアーの実施
- 令和4年度
- ・（11月）有識者委員意見交換会
 - ・（2月）教員向けモニターツアーの実施
 - ・（3月）新規ガイドマニュアルの制作
- 令和5年度
- ・（5・9月）関係者会議
 - ・（9月）相互視察（天ヶ瀬/鶴田）
 - ・（11月）相互視察（天ヶ瀬/鶴田）
 - ・（2月）協議会発足/第一回協議会
 - ・（3月）第二回協議会

これまでの取組

①戦略策定	・観光発展検討会等で近隣（宇治市内）の教育機関の誘致に向けた取組を行うことで合意形成ができ、実施すべき取組事項（既存コンテンツを教育旅行に特化した内容へ変化等）が明確化されている ・ かわまちづくり計画と一体になり、宇治川流域の河川空間を活用したモデルへ変容する予定
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	・宇治市観光協会が中心となった、対外的な予約受付体制は構築されている ・収益事業を宇治市観光協会が行うための河川空間のオープン化を申請準備中 ・ 河川空間のオープン化向け、かわまちづくりの推進会議構成者や地域商工事業者を交えた新たな協議会が発足
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	・これまで提供していた一般団体向けの見学商品（タリフあり）を教育旅行向けに磨き上げ ・宇治市観光協会を中心としたガイドの運営体制の構築、ガイドマニュアルは整備済み ・団体向けの見学商品を恒常的に観光協会が提供
④対外的な発信 情報発信/販路構築	・施設管理者ウェブサイト及び宇治市観光協会のウェブサイトにて天ヶ瀬ダム見学の情報を掲出 ・ 販路については宇治市観光協会が中心となり、旅行会社向けの販売等を行う

1. モデル地区の取組状況－天ヶ瀬ダム－

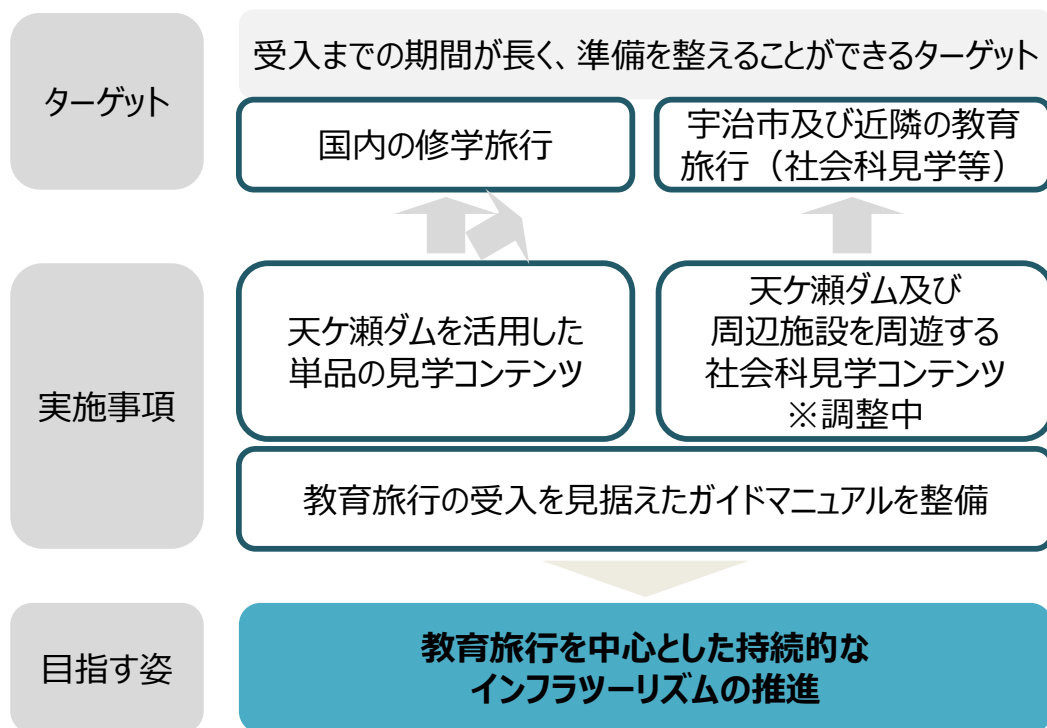
■ 戦略策定

- 地域の特性として、国内の修学旅行や地域内の社会科見学が多く、教育旅行への需要が高い
- ガイドの手配や受入の準備期間が必要であるが、教育旅行は予約から受入までの期間が長く、十分な準備を整えることができる
- 天ヶ瀬ダムでは、教育旅行を狙ったインフラツーリズムを推進する

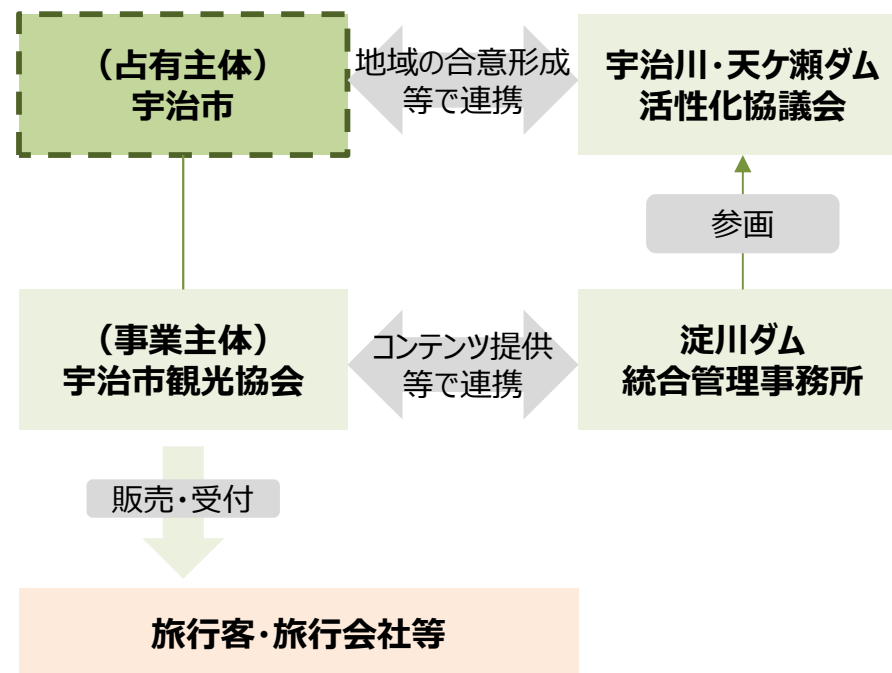
■ 事業基盤の構築

- 宇治市観光協会、淀川ダム統合管理事務所等による天ヶ瀬ダムにおける観光コンテンツ提供体制を構築
- 観光協会が主体となって予約・受付、コンテンツの運営ガイドを提供
- また、宇治市を主体として宇治川・天ヶ瀬ダム活性化協議会を立ち上げ、天ヶ瀬ダムを含む宇治川地域において河川空間のオープン化を進めており、かわまちづくり計画と一体となった宇治川流域の活用を進める体制となっている

ターゲットと戦略



オープン化後の体制イメージ



1. モデル地区の取組状況ー天ヶ瀬ダムー

■ 提供商品の造成

- 教育向けガイドマニュアル作成、ガイドへの教育も行うことで、ガイドの品質を均質化
- ガイドマニュアルは、一般観光客と小学生向けそれぞれのシナリオを作成し、観光客に合わせて案内
- 宇治市を中心として宇治川・天ヶ瀬ダム活性化協議会が発足し、宇治市のかわまちづくり計画において、天ヶ瀬ダムのインフラツーリズム、宇治川流域の水辺のにぎわいづくりの活用等、広域のコンテンツ造成を今後行っていく予定

ガイドマニュアル

【ガイドマニュアル】 天ヶ瀬ダム	
■ガイドの心構え.....	P-4
■ガイドマニュアル活用のポイント.....	P-4
1章 天ヶ瀬ダムの基礎情報.....	P-5
2章 事業案内・施設事項.....	P-8
3章 天ヶ瀬ダムの説明.....	P-10
1. 開閉説明（学生向け）.....	P-11
2. 開閉説明（一般向け）.....	P-16
3. ダム建設とダム湖.....	P-21
4. 天ヶ瀬ダムの施設関係.....	P-25
5. 天ヶ瀬ダムの周辺環境とその他.....	P-31
4章 周辺地域の説明.....	P-35
5章 コラム.....	P-45
1. ガイドの機能と役割.....	P-46
2. 教育旅行の導入のヒント.....	P-47
3. 天ヶ瀬ダムとSDGs.....	P-48
6章 参考資料.....	P-49
1. 用語集（土木技術・ダム関連）.....	P-50
2. 用語集（観光・文化・歴史等）.....	P-54
3. 淀川流域の地図.....	P-55
■その他.....	P-56
・問合せ先一覧.....	P-56

- ✓ 見学中の一連流れにあわせて、ガイドシナリオを口語体で記載
- ✓ 基礎的なダムの紹介に加え、ダムの豆知識や歴史、周辺地域についても紹介
- ✓ 一般向け・小学生に分けて記載

有料見学会

JR・京阪宇治駅発着 天ヶ瀬ダム見学ツアー

天ヶ瀬ダムを見に行こう！

※天ヶ瀬ダムは、宇治川流域に建設された「ドーム型アーチ式」のコンクリートダムです。堤頂長約254m、堤高は約73m。天ヶ瀬ダムには、「洪水を防ぐ」「電気をつくる」「飲み水を供給する」の3つの役割があります。流域の他のダムと連携しながら、淀川の水量をコントロールし、流域の暮らしを支えています。

※事前・事後の学習シートを活用した学内学習 ※講師等の派遣は応相談

●国士交通省職員によるダムの説明
●天ヶ瀬ダムの見学（※見学内容は状況により異なります。管理支所の見学、点検放流見学、キャットウォーク、堤頂見学、等）

所要時間 2時間程度
実施場所 天ヶ瀬ダム
アクセス 宇治駅より車で15分程度
駐車場 応相談

最少受付人員 15名
最少催行人員 15名
予約受付先 宇治市観光協会（専用のウェブ申込フォームあり）
取消料 7日前30%、前日40%、当日50%、無連絡・予定開始時間以降100%
アレルギー対応 なし
雨天時の振替 なし
体験保険の有無 あり ※宇治市観光協会にて付保
車いす対応 一部不可（キャットウォーク等、段差のある通路）
緊急連絡先 宇治市消防本部
その他（注意事項） ○工事状況や天候により、見学内容が異なります。予めご了承ください。
○緊急体制時には、見学を中止することもあります。
○動きやすい服装（靴）で、女性はズボン（ベタスタイ）を着用してください。
○移動しながらのデジタルカメラ・スマホ等の操作は禁止しています。

問合せ先 公益社団法人宇治市観光協会
電話番号 0763-67-3300 URL <https://www.kyoto-ujikankou.or.jp/>

- ✓ R5年度、JR宇治駅または京阪宇治駅から天ヶ瀬ダムへタクシーの送迎を行い、ガイドを行う見学ツアーを恒常的に販売
- ✓ キャットウォークや堤頂、管理者が仕事している管理室、点検放流の見学が可能
- ✓ R6年2月現在、100名程度が参加

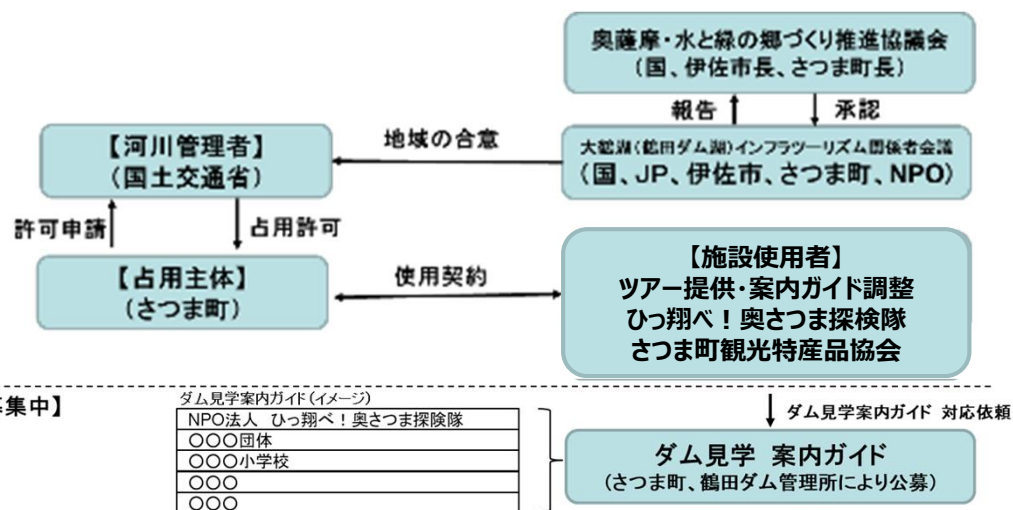
教育旅行

企画名	天ヶ瀬ダム見学ツアー (教育旅行向け/送迎なし)	国内	団体	△
			個人	△
教育			クラス別	△
			班別	○
訪日			学年	△
			団体	-
企画概要			個人	-
			商品イメージ	
設定期間	通年			
設定除外日	不定期※土日祝は受付不可場合があります			
販売価格 (料金/税込)	1人あたり1500円 最低価格: 30,000円			
旅行会社への 販売手数料	0%			
料金に 含まれるもの	タクシー代、見学科、ヘルメット等の貸出、ガイド料、保険料 ※ガイドは20名あたり1名同行			
料金に 含まれないもの	-			
商品内容 (詳細)	※事前・事後の学習シートを活用した学内学習 ※講師等の派遣は応相談 ●国士交通省職員によるダムの説明 ●天ヶ瀬ダムの見学（※見学内容は状況により異なります。管理支所の見学、点検放流見学、キャットウォーク、堤頂見学、等）			
所要時間	2時間程度			
実施場所	天ヶ瀬ダム			
アクセス	宇治駅より車で15分程度			
駐車場	応相談			
最少受付人員	15名			
最少催行人員	15名			
予約受付先	宇治市観光協会（専用のウェブ申込フォームあり）			
取消料	7日前30%、前日40%、当日50%、無連絡・予定開始時間以降100%			
アレルギー対応	なし			
雨天時の振替	なし			
体験保険の有無	あり ※宇治市観光協会にて付保			
車いす対応	一部不可（キャットウォーク等、段差のある通路）			
緊急連絡先	宇治市消防本部			
その他 (注意事項)	○工事状況や天候により、見学内容が異なります。予めご了承ください。 ○緊急体制時には、見学を中止することもあります。 ○動きやすい服装（靴）で、女性はズボン（ベタスタイ）を着用してください。 ○移動しながらのデジタルカメラ・スマホ等の操作は禁止しています。			
問合せ先	公益社団法人宇治市観光協会 電話番号 0763-67-3300 URL https://www.kyoto-ujikankou.or.jp/			

- ✓ 教育旅行コンテンツ販売に際して必要事項をタリフ化
- ✓ 最少/最大の受付人数や、取消料規定等の必要な事項の整理を行った

1. モデル地区の取組状況－鶴田ダム－

体制・運営スキーム



これまでの実施スケジュール（抜粋）

モデル地区採択（令和元年7月）

- 協議会の立ち上げ：R1.7～R2.3
- 戦略の策定：R1.7～
- 運営体制の検討及び構築：R1.7～
- コンテンツの検討及び地域観光資源の活用：R1.7～
- モニターツアー等の実施：R2.11
- 旅行商品の造成：R1.7～
- 販売戦略の構築：R4.10～

■河川空間のオープン化準備・手続き：R4.12～R5.10

- 令和元年度
 - ・モデル地区採択（令和元年7月）
 - ・（11月）ファムツアーの実施
- 令和2年度
 - ・（11月）モニターツアーの実施
- 令和3年度 ※コロナ禍及び水害対応により
取組休止
- 令和4年度
 - ・（12月・2月）関係者会議の立ち上げ・実施、※
体制の再構築・方針の設定
- 令和5年度
 - ・（4月）ダム見学有料化の試行開始
 - ・（8月・11月）関係者会議の実施
 - ・（10月）河川空間のオープン化指定
（占用主体：さつま町）
 - ・（11月）オープン化記念イベント開催
 - ・（2月）ファムツアーの実施

これまでの取組

①戦略策定

- ・ **個人客のツアーを有料化へ移行させ、持続可能な体制構築を図る**
- ・ 個人客が多いという観光ニーズに対応しつつ、将来的には団体客（バス旅等）への対応を検討
- ・ 将来的にはダム周辺の観光地とゆるやかな連携によるツアーの実施や事業収益向上の検討

②事業基盤の構築

体制構築/受入環境整備

- ・さつま町を占有主体とした、新たな体制へ移行（当面はダム見学有料化とダム焼酎貯蔵の販売・管理での利用）
- ・上記に付随し鶴田ダム及びダム周辺の一部を都市地域再生区域（河川空間のオープン化）に指定完了
- ・休日の受入が可能な体制構築済み（第2・第4日曜日）

③提供商品の造成

コンテンツ造成/ガイド整備

- ・ダム見学有料化コンテンツとダム焼酎貯蔵販売する商品を開発
- ・オープン化に併せてダム見学案内ガイドを募集し、案内ガイドによる運用を開始
- ・大鶴湖の遊覧船（曾木の滝・曾木発電所遺構）等を組み入れた見学プランを検討中
- ・近隣NPOがガイドなど主体的に遊覧船を運用する予定（イベントとして単発的には実施中）

④ 対外的な発信 情報発信/販路構築

- ・ オンライン上で受付可能な予約フォームを整備済み
- ・ 近隣の教育旅行等を担う地域の旅行会社の販路開拓に向けファミツアーを実施。鹿児島県内のバスツアーの誘致や鹿児島県観光連盟の教育旅行商材の一覧へ掲載を予定

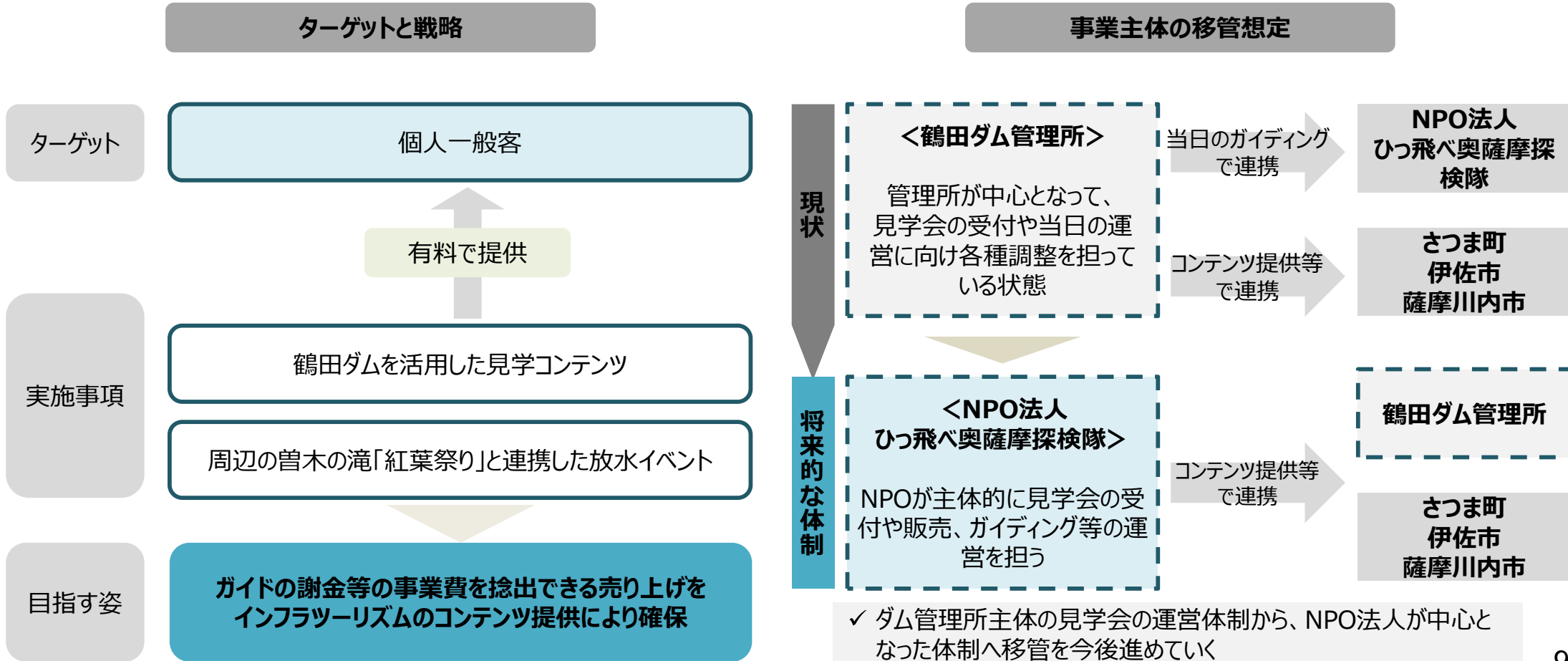
1. モデル地区の取組状況－鶴田ダム－

■ 戦略策定

- これまで、ダム見学は無料で見学を提供をしている近隣の学校等の教育機関の受入が多数
- ガイドへの支払い原資や事業費用の調達を見据え、個人客の受入を有料化へ移行

■ 事業基盤の構築

- 鶴田ダム管理所、さつま町、地域のNPO法人等からなる「大鶴湖インフラツーリズム関係者会議」が中心となって事業を推進
- 令和5年10月、河川空間のオープン化指定が完了。これまで、ダム管理所が行っていた見学会の予約・受付、運営等の業務を将来的には地域NPOへ移管、民間が中心となった体制に遷移する予定



1. モデル地区の取組状況－鶴田ダム－

■ 提供商品の造成

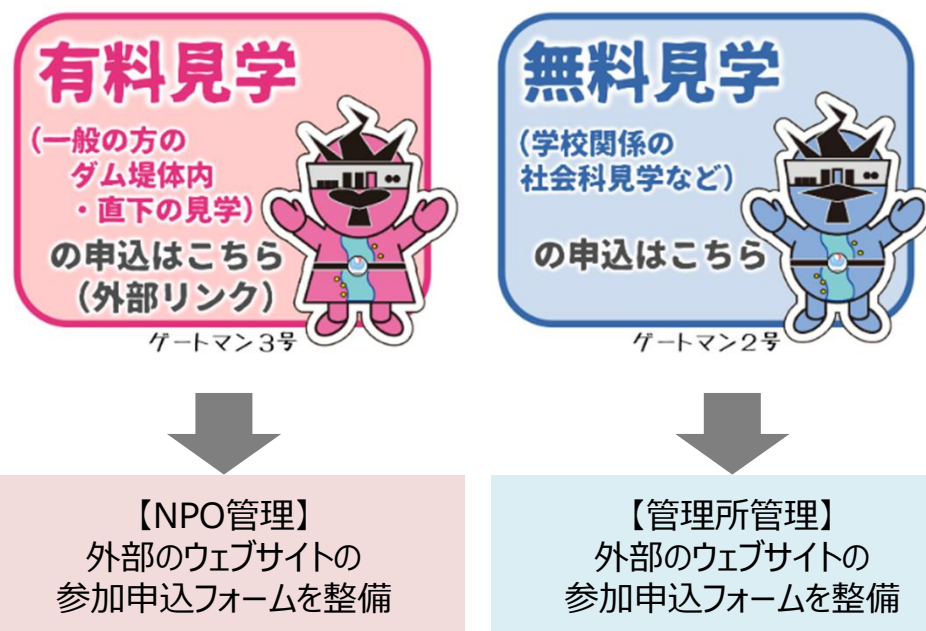
- これまで無料だったダム見学会を個人向けに有料化 ※子供（高校生以下）は引き続き無料で参加可能
- ウェブサイトで有料と無料の体験会の予約を分けて受付を実施
- 見学会のガイドは地域NPOが担い、体験会前に行うダムの特徴等の説明やダム堤体内部の見学の案内をしている

見学会の案内



- ✓ 見学会では、管理施設内での事前説明やダム直下広場や、ダム内部・ゲート室の見学が可能
- ✓ 見学会コンテンツには含まれていないものの、隣接施設で提供しているダムカレーやダムの堤体内で保管しているエイジング焼酎の紹介も行っている

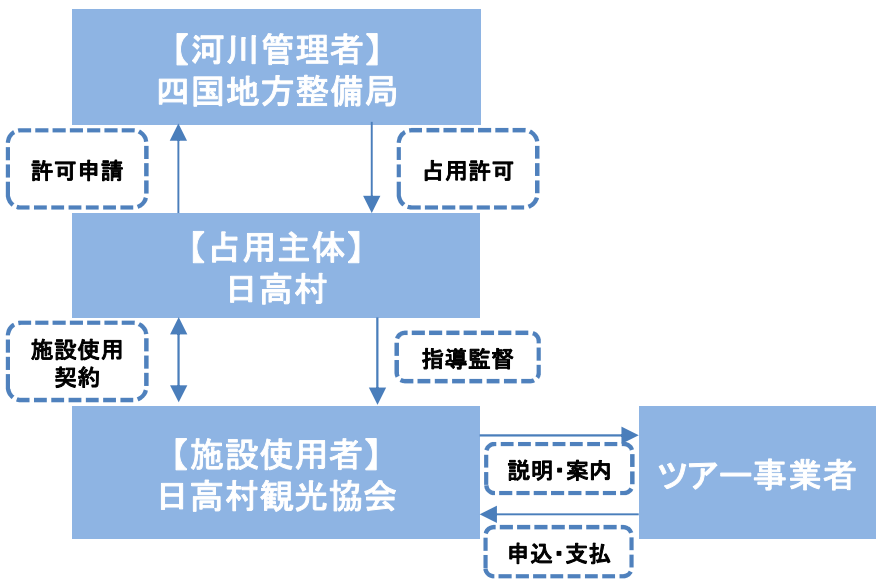
受付サイト



- ✓ ダム見学会は有料・無料でウェブサイトの入り口を分けて受付を行っている
- ✓ ダム管理所のウェブサイトでは料金を収受するウェブコンテンツの掲載ができないため、有料見学の受付や案内はNPOが管理する外部のウェブサイトで行う設計になっている

1. モデル地区の取組状況―新日下川放水路―

体制・運営スキーム



これまでの実施スケジュール（抜粋）

- モデル地区採択（令和2年8月）
- 協議会の立ち上げ：R2.8～R3.3
 - 戦略の策定：R2.8～
 - 運営体制の検討及び構築：R2.8～
 - 施設利用の覚書締結：R4.10～
 - コンテンツの検討及び地域観光資源の活用：R2.8～
 - モニターツアー等の実施：R3.9
 - 旅行商品の造成：R4.3～
 - 販売戦略の構築：R4.3～
 - 情報発信及び媒体の検討：R4.3～
- 令和2年度
- ・（12月）現地協議会の実施
- 令和3年度
- ・（9月）webファムツアー意見交換会
 - ・（12月）現地協議会の実施
- 令和4年度
- ・（8月）ガイド研修の実施
 - ・（10月）利用（施工中）に関する覚書を締結
 - ・（2月）現地協議会の実施
- 令和5年度
- ・（5月・11月・2月）関係者会議実施
 - ・（12月）新規ロゴの製作
 - ・（12月～3月）新規高付加価値化コンテンツの試作、実現可能性の検証

これまでの取組

①戦略策定	・元々受入の素地があった、近隣教育旅行をターゲットに設定することで関係者合意 ・放水路のコンセプトを関係者間で協議・決定（「巨大な水のトンネルは、未来へのトビウ。」） ・教育旅行誘致は継続しつつ、高単価の個人の誘客も併せて推進し、地域としての収益性を向上させていく予定
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	・日高村を占用主体とした河川空間のオープン化に向け、法手続き準備中 ・試験運用として「日下川新規放水路（施工中）の利用に関する覚書」を高知河川国道事務所、日高村、工事施工者の3者で締結 ・観光客がコンテンツの予約が出来るような窓口を観光協会が中心に行うことを検討中
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	・ガイドは日高村観光協会及びガイド協会が担当。ガイド内容の均質化を図るためのガイドシナリオも作成済み ・放水路の見学に留まらない、新たな高付加価値コンテンツを造成中（トンネルクルーズ体験） ・仁淀川流域の魅力や日高村の水害の歴史を発信・体感する場として、映像制作を実施
④対外的な発信 情報発信/販路構築	・令和3年、令和4年に実施された仁淀ブルー体験博及び令和5年3月、6月に旅行会社主催のバスツアーを販売 ・対外的な発信を見越して、ブランドロゴを新規制作。ロゴは、パンフレットやウェブサイト等で活用予定

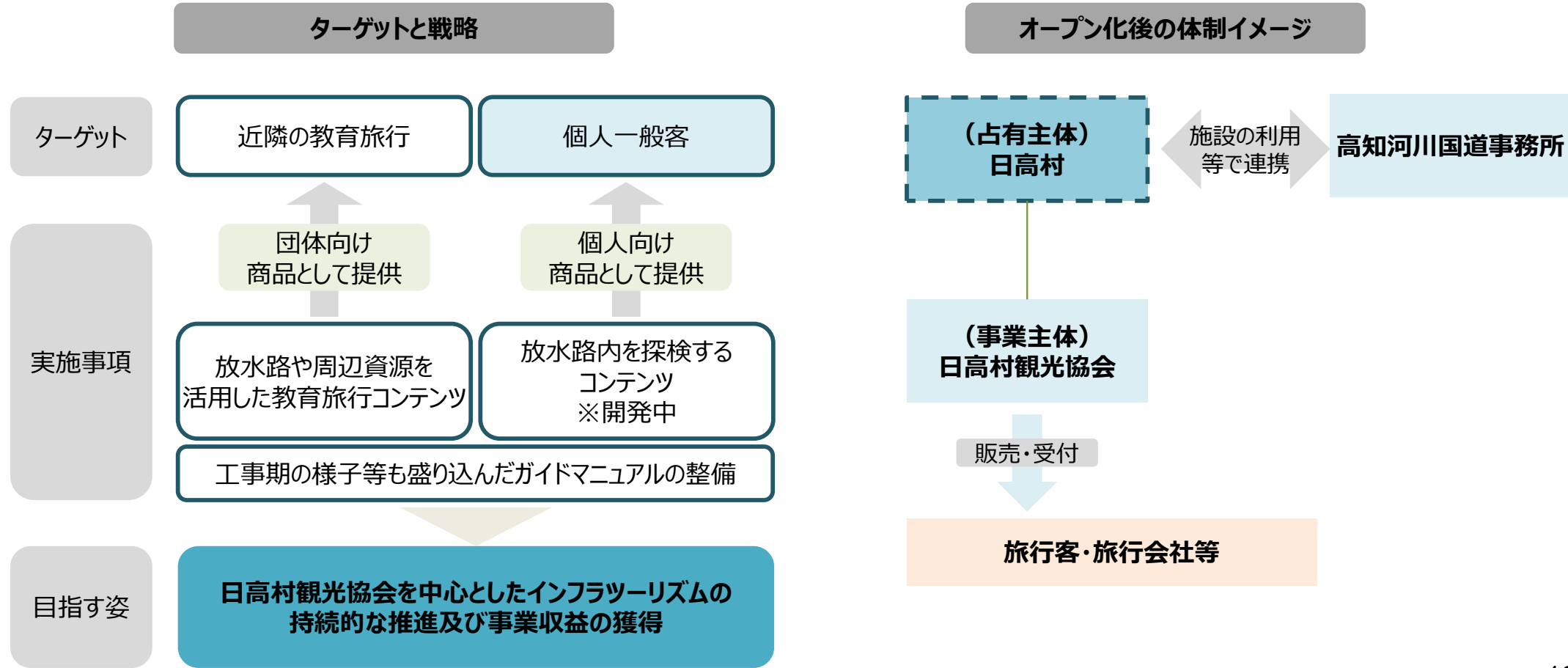
1. モデル地区の取組状況—新日下川放水路—

■ 戦略策定

- 新日下川放水路のある、日高村はもともと近隣教育機関からの受入の要望が多く、インフラツーリズムにおいても教育旅行を誘致する方針で関係者合意
- 将来的には一般個人客の受入も教育旅行誘致と併せて目指す予定

■ 事業基盤の構築

- 新日下川放水路トンネル部の施工も完了し、民間活用に向けた河川空間のオープン化手続きを進めている
- 将来的には日高村観光協会がコンテンツ運営、予約・受付、ガイドの一切の業務を担う予定

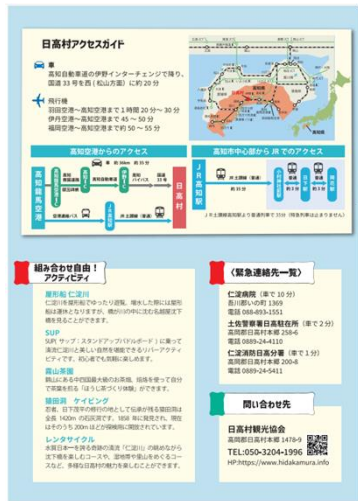


1. モデル地区の取組状況ー新日下川放水路ー

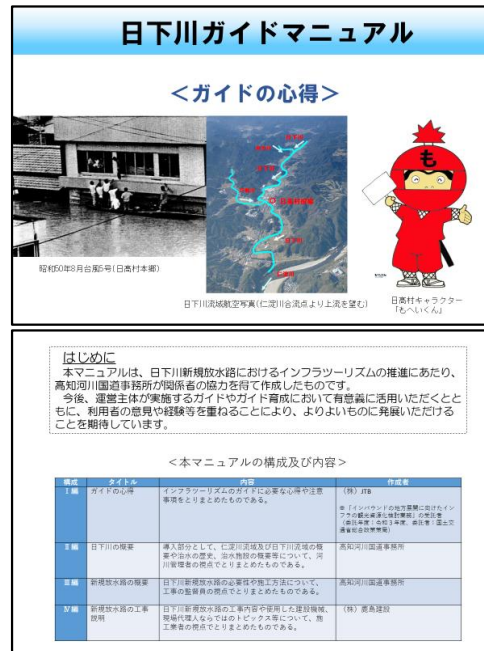
■ 提供商品の造成

- 基礎的な教育旅行向けの見学コンテンツのほか、放水路を活用したトンネルクルーズ体験の造成を検討
- 案内ガイドは観光協会及び観光協会と連携するガイド協会が担う予定。
- ガイドシナリオの統一を図るためガイドマニュアルを作成、またガイドの理解を促進するための研修会を実施

教育旅行パンフレット



ガイドマニュアル



トンネルクルーズ体験※検討中



試走時の様子

- ✓ 教育旅行に訴求するため、新日下川放水路の見学で学べることや見学内容等をまとめたパンフレットを制作
- ✓ 合わせて、アクセスや問い合わせ先、周辺観光資源等の情報もあわせて掲載

- ✓ ガイドの案内に必要なシナリオを、ガイドがアレンジしやすいように、必須で説明すべきポイントと画像で紹介
- ✓ ガイドのシナリオだけでなく、ガイドが習得すべき必須のスキルや心構えについても併せて掲載

- ✓ 既存の見学の高付加価値、高単価コンテンツの造成を目指し、放水路を活用したコンテンツの造成を検討
- ✓ 現在、放水路トンネル内をガイドの案内のもととボートで下る案を検討中

1. モデル地区の取組状況－社会実験の総括－

これまでの社会実験を通じて、インフラツーリズムとしての魅力が向上しており、**天ヶ瀬ダム、鶴田ダム、新日下川放水路は卒業が可能**

- ◎：実施中（実施内容・役割分担等の決定）
- ：検討中（概ねの方針決定段階）
- △：検討中（方針未定、着手の初期段階（課題の整理等））
- －：検討未着手

整理項目	天ヶ瀬ダム	鶴田ダム	新日下川放水路
①戦略策定	◎ ➢ 教育旅行をターゲットにコンテンツを販売 ➢ 今後、ダム周辺のみならず新たな宇治川流域を活用した誘客モデルを構築予定	◎ ➢ ガイドへの支払い原資や事業費用の調達を見据え、個人客の受入を有料化へ移行 ➢ 着実に誘客実績を積み上げていくため、近隣のバスツアーの誘致を今後行っていく予定	◎ ➢ 近隣教育旅行誘致を目指し、教育旅行関連のコンテンツやパンフレットを整備 ➢ 収益性を向上させるため、個人向けの高単価商品の販売も今後検討していく
②事業基盤の構築（体制構築/受入環境整備）	○ ➢ 宇治市を中心に商工事業者や宇治川流域の関係者による協議会を発足 ➢ 宇治市がダムの占有主体及び地域の合意形成を図り、宇治市観光協会が事業主体となってコンテンツ販売・運営を行う	◎ ➢ 河川空間のオープン化手続き完了 ➢ これまでツアーの予約・受付は鶴田ダム管理所が行っていたが、将来的には地域のNPOが主体的な役割を果たす	○ ➢ 河川空間のオープン化に向けた手続きの準備中。次年度手続き予定 ➢ 日高村観光協会が事業主体として、コンテンツ造成から販売、運営までを一手に担う予定
③提供商品の造成（コンテンツ造成/ガイド整備）	◎ ➢ 天ヶ瀬ダムの団体見学（点検放流、キャットウォーク、管理室等）の有料コンテンツを造成 ➢ 小学生/一般別で説明内容を変えたガイドマニュアルを作成	◎ ➢ ダム見学会の土日受入を開始するとともに、近隣教育団体向けの無料見学会と一般向けの有料見学会を分けて販売 ➢ ガイド運営の体制を構築	○ ➢ 教育旅行向けのコンテンツやパンフレットを整備済み ➢ ガイドの均質化を図るためのマニュアルを整備、研修会も実施している ➢ 一般向けのコンテンツ造成に向け説明動画を作成中
④対外的な発信（情報発信/販路構築）	◎ ➢ 宇治市観光協会ウェブサイトにて見学会の情報を発信。ウェブサイトの情報は定期的に更新を行っている。また、淀川統合管理事務所ウェブサイトでも見学会を紹介 ➢ 観光協会のウェブサイトを起点に旅行会社に向けて見学会を販売	◎ ➢ 鶴田ダム管理所のウェブサイトで見学会の情報を発信、定期的に内容を更新 ➢ 同ウェブサイト上で、見学会の販売ができるようシステムを整備	◎ ➢ 対外的な発信を見越して、ブランドロゴを新規制作。ロゴは、パンフレットやウェブサイト等で活用予定 ➢ 日高村観光協会による情報発信が可能
⑤地域が主体となった観光コンテンツの実施	◎ ➢ 宇治市観光協会が事業主体となり、有料の見学会コンテンツの販売、予約受付、運営を行う ➢ 次年度以降、発展的に宇治川流域を活用した誘客モデル構築していく	◎ ➢ 河川空間のオープン化手続きも完了し、地域のNPO法人を事業主体とする事業体制へ移行 ➢ 恒常的に有料見学会の受入を行っている	○ ➢ 日高村観光協会が主体となり、有料コンテンツを提供中 ➢ 将来的に地域としての収益性を高めるために、個人・高単価コンテンツを造成していく予定

1. モデル地区の取組状況

事業総括

天ヶ瀬ダム (京都府宇治市)

- 戦略の策定や体制構築が行われ、ガイドの整備や見学箇所を工夫し、天ヶ瀬ダムの観光コンテンツとして磨き上げられ、宇治市観光協会による恒常的に有料のコンテンツを販売、予約・受付が行われている
- 令和5年度、宇治市を主体として宇治川・天ヶ瀬ダム活性化協議会が発足し、河川空間のオープン化に向けた要件が整い、宇治川流域で連携したコンテンツ造成等の検討が可能になった
- 天ヶ瀬ダムに着目したコンテンツ造成は完了。次年度以降、発展的に行う宇治川流域の舟運等と連携したコンテンツ造成を推進する

鶴田ダム (鹿児島県さつま町)

- 事業を堅実に推進するために、鶴田ダム管理所が主体的に動ける業務範囲で戦略や体制の構築を行ってきた
- 体制も構築されたことから見学会コンテンツは、個人客が利用しやすい休日の受入を開始するとともに、事業費確保に向けて有料化へ移管、予約もウェブサイト上で受付できるようシステムも整備
- 曾木発電所遺構等、近隣地域を周遊するツアーや、鹿児島県内のバス会社と連携したバスツアーにおいて周遊性のあるコンテンツを販売していく

新日下川放水路 (高知県日高村)

- 近隣の教育旅行誘致と併せて個人向けの高付加・高単価商品として、放水路トンネル内をガイドの案内のもとボードで下るトンネルクルーズ体験を検討している
- 事業の体制は日高村観光協会が有料のコンテンツを販売、予約・受付等を担う
- ガイドマニュアルに、工事中から完成のストーリーを伝えるため、工事の様子や建設会社の苦労話等の内容を盛り込み、コンテンツの魅力を向上

1. モデル地区の取組状況ーR5採択のモデル地区と概要ー

◆新モデル地区における個別の検証事項



○青い池(美瑛川ブロック堰堤)と十勝岳火山砂防情報センター

- ・十勝岳の火山泥流から美瑛町を守るブロック堰堤により青い池が形成された有名観光スポット。
- ・ジオパークと連携し、火山との共生をテーマに学習する観光地との連携モデル。



だいげんた

○大源太川第1号砂防堰堤

- ・昭和14年に完成したアーチ式砂防堰堤で登録有形文化財、選奨土木遺産。
- ・砂防施設をツーリズムとして見せるための検討を進めるとともに、周辺観光資源を組み合わせた連携モデル。



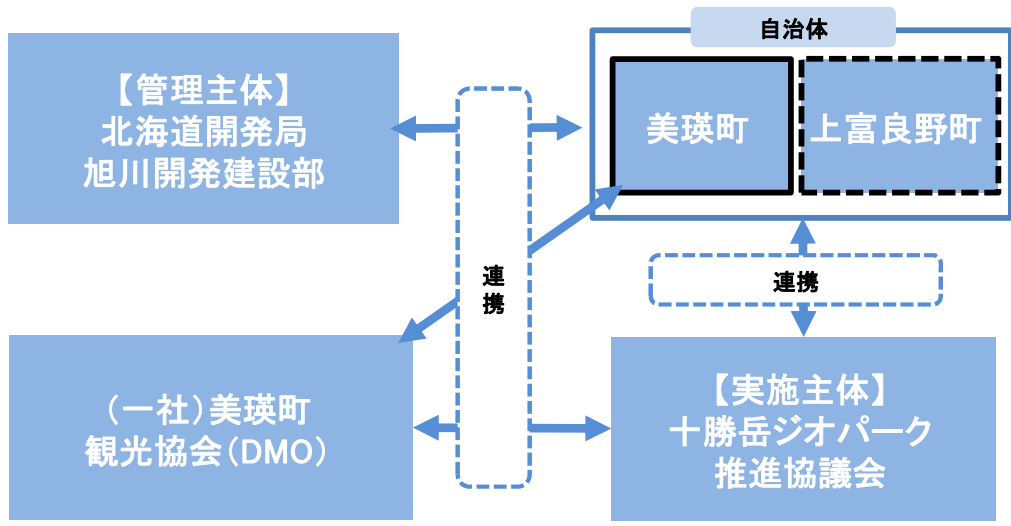
かめのせ

○亀の瀬地すべり対策

- ・全国有数の大規模な地すべり対策事業で、集水井や排水トンネルの見学が可能。
- ・龍田古道や明治時代の鉄道トンネルなどを組み合わせ、歴史を紹介・学習する既存見学会の発展モデル。

1. モデル地区の取組状況ー青い池と十勝岳火山砂防情報センターー

体制・運営スキーム



モデル地区採択後の実施事項

- 令和5年度
- ・ (11月) モデル地区キックオフミーティング
 - ・ (12月) 関係者会議
 - ・ (1月) 現地見学、地域関係者会議
 - ・ (2月) 仮コンテンツパンフレット作成、誘導看板案の作成
 - ・ (3月) 協議会の発足、ガイディングシナリオの作成※予定

モデル地区選定後の具体的な取組

	モデル地区選定後の具体的な取組
① 戦略策定	・ 質の高いガイド養成のためのガイディングシナリオの作成 ・ 既存のジオツアーに加え、インフラ・ジオツアーと称する新たなコンテンツ開発の検討
② 事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	・ 十勝岳ジオパーク推進協議会を核とした美瑛町との連携。今後、十勝岳ジオパークの構成自治体であり、隣接する上富良野町との連携体制の構築を検討 ・ (一社) 美瑛町観光協会 (DMO) と連携した受入体制の構築検討
③ 提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	・ 個人向け・団体向けのコンテンツ造成検討 ・ ガイディングシナリオを作成し、インフラ・ジオツアーとして既存施設見学の体験価値を向上させる
④ 対外的な発信 情報発信/販路構築	・ 十勝岳火山砂防情報センターへ誘導するための看板検討 (インバウンド対応も含む) ・ インフラ・ジオツアーPR資料の作成

1. モデル地区の取組状況ー青い池と十勝岳火山砂防情報センターー

■ 戦略策定

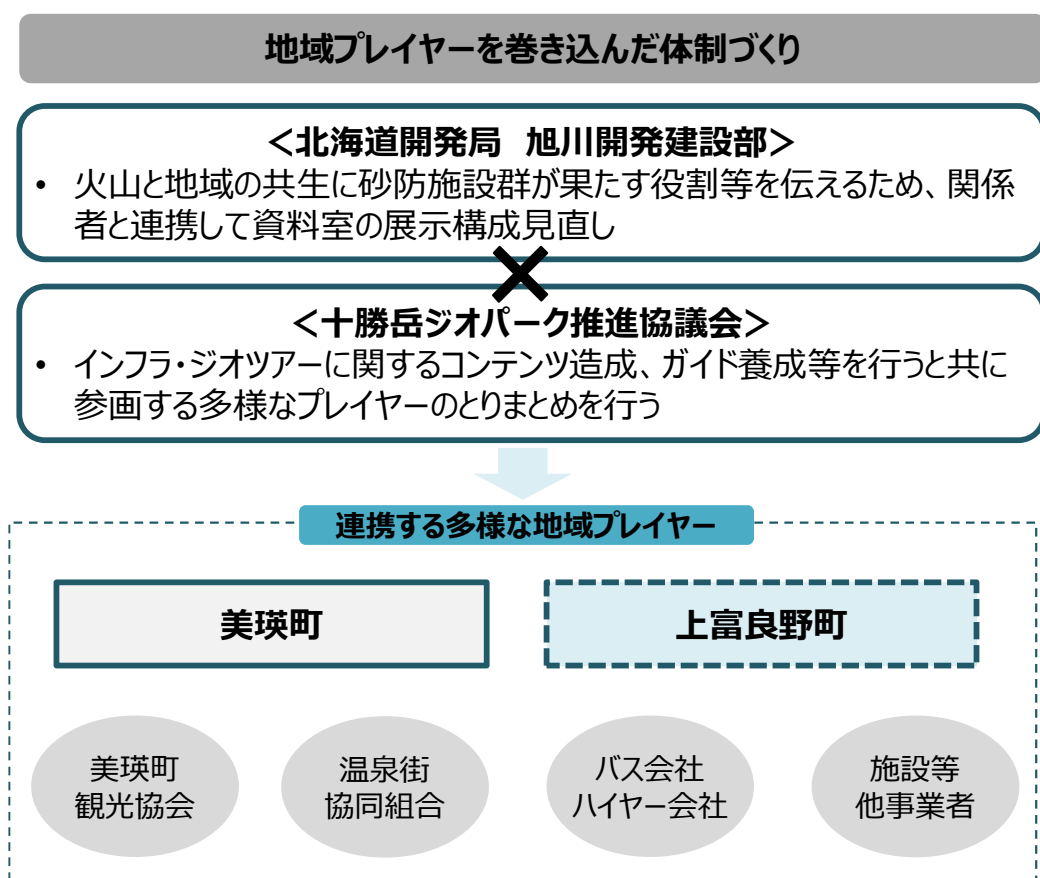
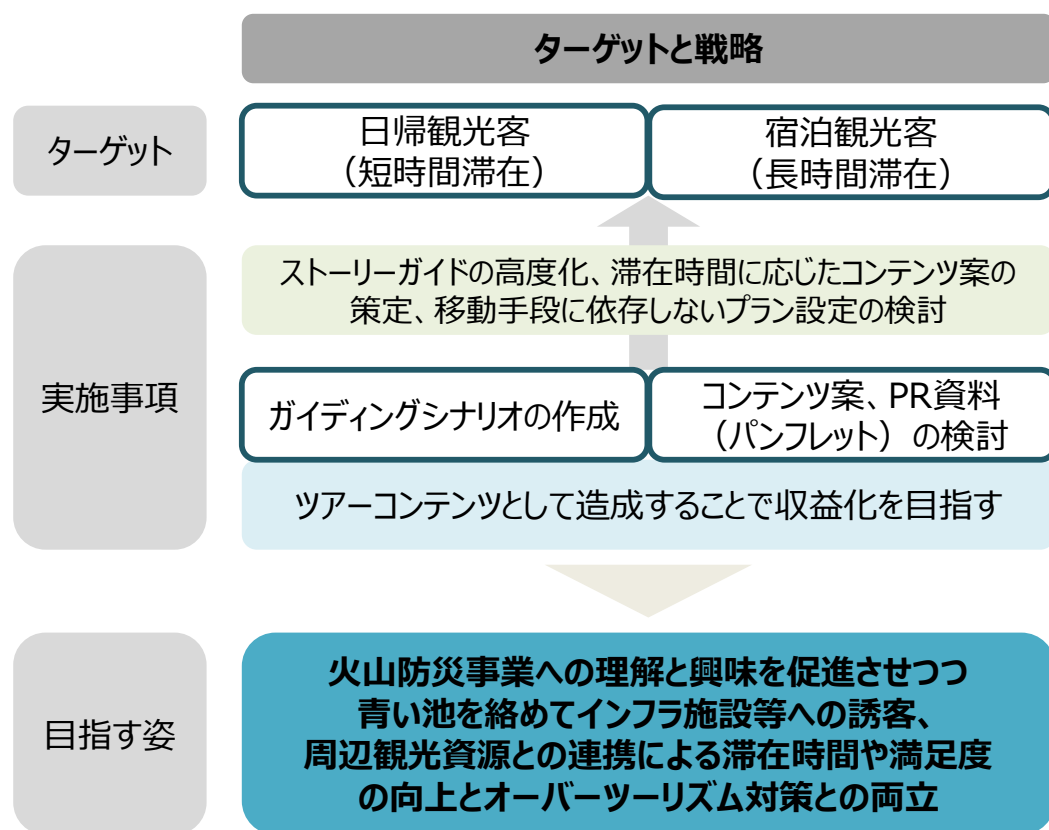
- 十勝岳の火山防災を地域のストーリーとしてコンテンツを造成する

■ 事業基盤の構築

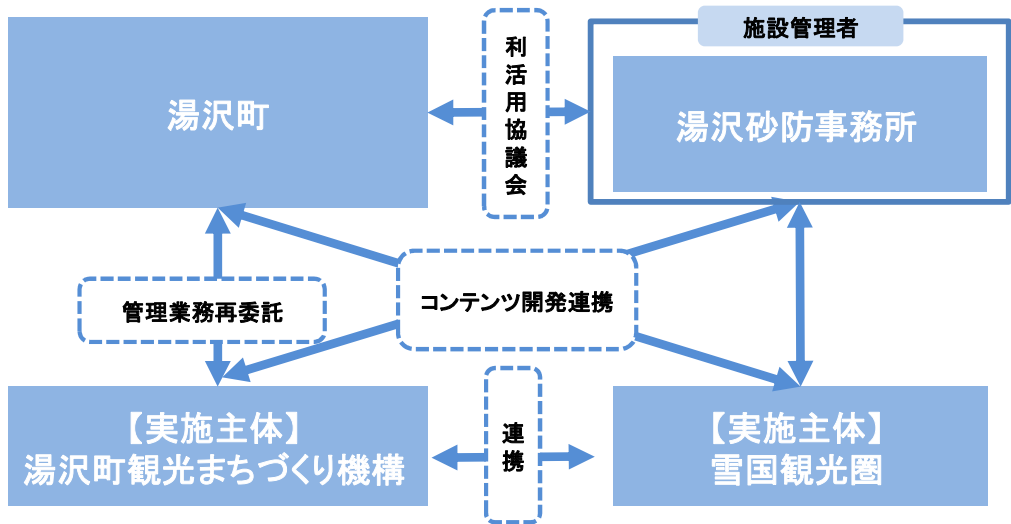
- 十勝岳ジオパーク推進協議会、美瑛町、（一社）美瑛町観光協会（DMO）、地元ガイド等との連携
- 協議会の発足に向けて調整中

■ 提供商品の造成

- 青い池と十勝岳火山砂防情報センターを核として、火山のストーリーに関する地域の観光資源と連携させたコンテンツを造成中。
- ガイド養成に向けたガイディングシナリオ、インフラ・ジオツアーのPRに関するパンフレット等について作成中



1. モデル地区の取組状況―大源太川第1号砂防堰堤―

体制・運営スキーム	モデル地区選定前までの取組	モデル地区採択後の実施事項
	■平成26年～ - 老朽化が著しかったため補強対策工事に着手 ■令和4年度 - 竣工 - 堰堤及びその周辺部の利活用を図るため「大源太砂防設備利活用協議会」を設置 ■令和5年度 - 竣工式挙行 - 安全、砂防講習会を実施 - モニターツアーの実施	■令和5年度 (10月) モデル地区キックオフミーティング (12月) 事業計画書策定 (12月) 地域関係者ミーティング (2月) 湯沢町、雪国観光圏、湯沢町観光まちづくり機構との個別意見交換会実施 (3月) コンテンツの素案、体制作りを整理※予定

	これまでの取組
①戦略策定	- 近隣、広域スポットと連携したコンテンツ化による体験価値磨き上げ、提供スキーム構築の検討 - 他モデル地区、観光地における事例を活用した体験価値の高度化の検討
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	- 管理業務の委託先である湯沢町観光まちづくり機構と連携した土日を含めた受入体制の整備の検討 - ガイド講習会に合わせてガイドの認定
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	- 過去実施ツアー、モニターツアー実績を踏まえた基本設計の策定 - 他事例やスポットと、異業種と連携した体験価値の磨き上げの検討 - ガイド人材候補へのPR、ガイド料金等の基本設計の構築の検討
④対外的な発信 情報発信/販路構築	- 雪国観光圏ホームページを活用したツアー告知の検討 - 新たな情報発信方策についてコンテンツPR資料等の作成検討

1. モデル地区の取組状況—大源太川第1号砂防堰堤—

■戦略策定

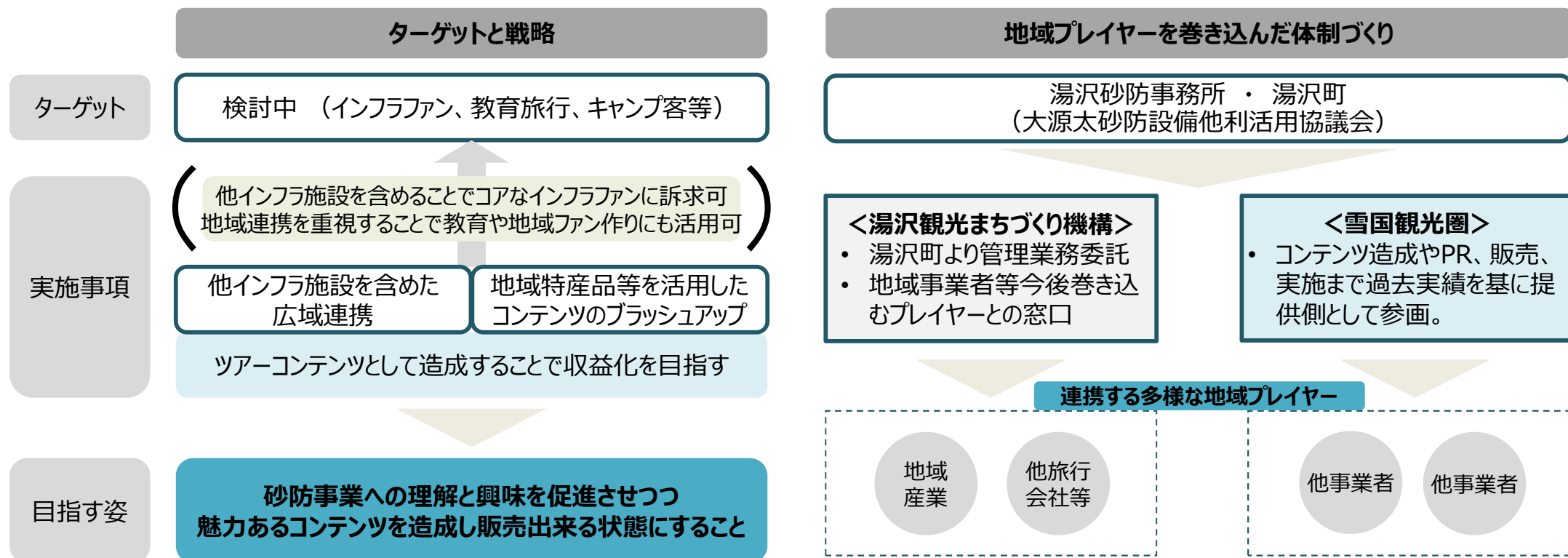
- 大源太の防災を地域のストーリーとして、周辺施設と連携したコンテンツを造成する

■事業基盤の構築

- 砂防施設及び周辺施設管理主体者とコンテンツ提供者と連携した体制づくり
- ガイド人数確保に向けた支援

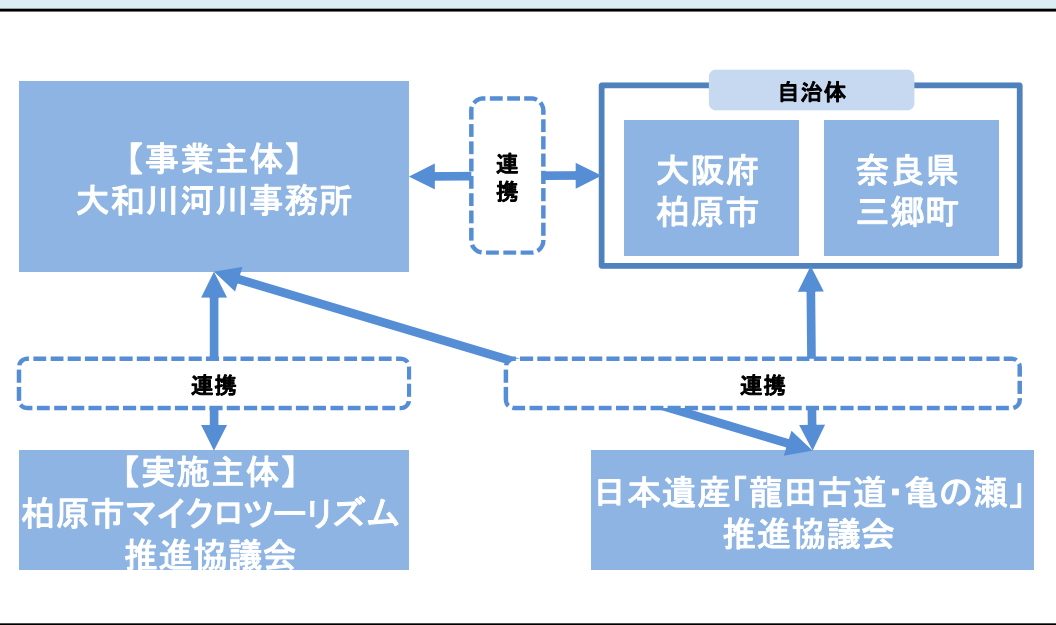
■提供商品の造成

- 周辺インフラ施設を含む広域でのコンテンツ造成に加えて、地域の特産品を絡めた体験価値のブラッシュアップ



1. モデル地区の取組状況ー亀の瀬地すべり対策工事ー

体制・運営スキーム



モデル地区採択後の実施事項

- 令和5年度
 - ・ (8月) モデル地区キックオフミーティング
 - ・ (12月) 関係者会議
 - ・ (12月) 第一回地域関係者ワークショップ
 - ・ (1月) 第二回地域関係者ワークショップ
 - ・ (2月) ファムツアーの開催
 - ・ (3月) 新資料室の完成 (予定)

モデル地区選定後の具体的な取組

	モデル地区選定後の具体的な取組
①戦略策定	・ 関西圏の一般、教育等の幅広いターゲットを対象に有料コンテンツ等の販売を実施するとともに、地域の賑わい創出を目的に事業を展開 ・ 地域関係者によるワークショップを開催し、インフラツーリズムを通じた稼げる地域づくりや観光消費額の向上に向けて滞在時間の延長や消費を促す仕組みを検討中
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	・ ツアーの運営や予約・受付を民間事業者が担う方針で体制を構築中 ・ 地域の商工事業者、教育機関、自治体等を巻き込み地域関係者が一体となってインフラツーリズムを推進する体制も併せて構築している ・ 亀の背地すべり資料室を更新中
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	・ 既存のプロジェクションマッピング見学の有料化に向け、地域の周遊性を高めた高付加価値化コンテンツの造成を検討 ・ インバウンド関係の事業者を招いたファムツアーを開催。インバウンド向けコンテンツの造成を検討 ・ これまで河川事務所がになっていた案内ガイドを地域関係者等により実施していく方針
④対外的な発信 情報発信/販路構築	・ 新たに亀の瀬インフラツーリズムウェブサイトを構築し、情報発信を実施 ・ 新たな情報発信方策について地域事業者を巻き込み検討

1. モデル地区の取組状況―亀の瀬地すべり対策工事―

■ 戦略策定

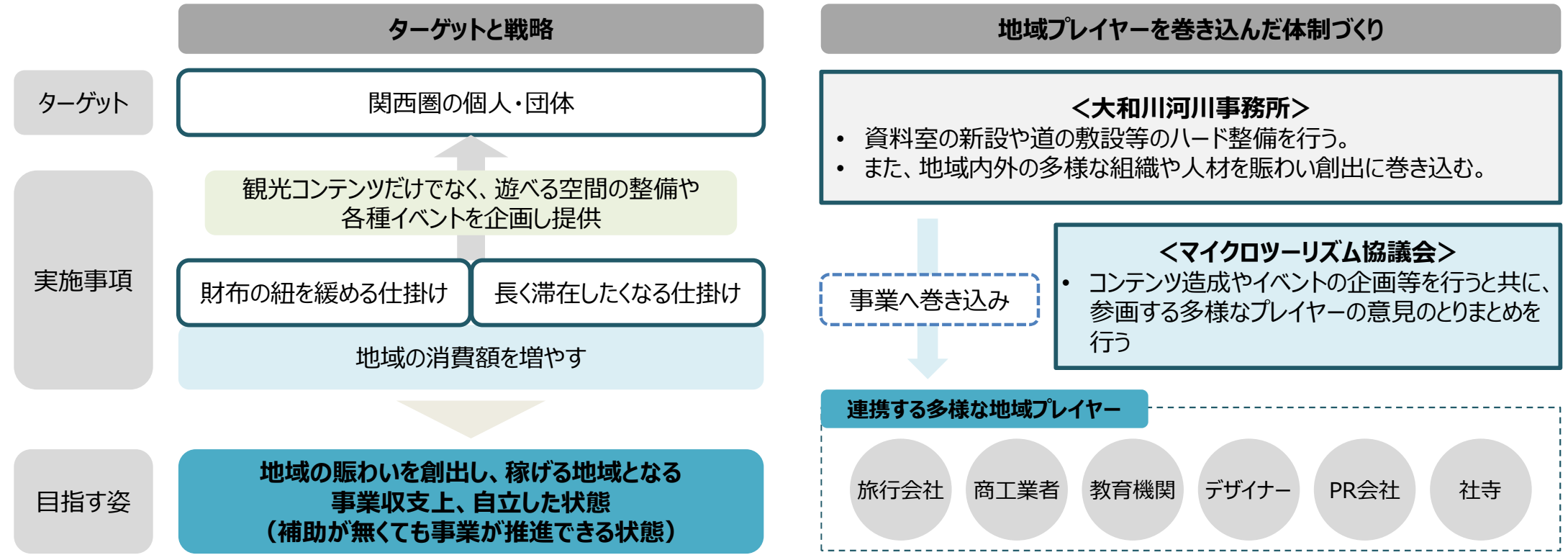
- 関西圏の幅広い層に対してトンネルを活用したコンテンツを提供。今後はツアー等だけでなく、新資料室周辺の公園整備や日本遺産といった周辺資源の活用も行いながら、地域の消費額向上に向けて地域の賑わいを創出していく

■ 事業基盤の構築

- 地域の柏原市マイクロツーリズム推進協議会が、将来的にはコンテンツ造成から予約/受付まで担えるように調整中。
- 地域の賑わい創出に向けて多様な地域プレイヤーが参画し議論を深めている。

■ 提供商品の造成

- 地すべり対策工事の際に発見された、トンネル遺構を活用したプロジェクションマッピングの他、排水施設や資料室の見学の受入を行っている
- また、地域の多様なプレイヤーが自身の事業において亀の瀬と周辺資源を組み合わせた周遊ツアー等を企画して販売している



2. インフラツーリズムのさらなる拡大に向けて

2. インフラツーリズムのさらなる拡大に向けて

本懇談会の目的と取組状況

目的 インフラを観光資源として活用するインフラツーリズム(※)の付加価値を高め、地域や民間と連携した新たなインフラツーリズムに育て、展開していくために必要な方策について議論

本懇談会におけるインフラツーリズムは、国民にインフラの社会的意義を理解していただくこと、および普段訪れることのできないインフラ施設の内部や、日々変化する工事中の風景などの非日常を体験するツアーを地域と連携して展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指すもの。

インフラツーリズムのさらなる拡大に向けて 提言(H31.3)
に位置づけられた「2020年にむけての取り組み」

インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト

1. モデル地域での社会実験の実施
2. 国内外に向けた魅力ある広報を展開
3. 訪日外国人旅行客のニーズを把握したインバウンド対応

実施状況

- ・民間によるツアー提供ができそうなインフラ施設をモデル地区として認定(全国7ブロック10地区)で旅行商品造成。
- ・インフラ施設を観光コンテンツとする上でのノウハウを蓄積し、インフラツーリズムの手引き(改訂版)を作成
- ・広報の充実に向けて、ポータルサイトの構成を見直し中

2. インフラツーリズムのさらなる拡大に向けて

今後のインフラツーリズムの方向性と懇談会での議論について

- ◆ これまでのモデル地域の取り組みや社会情勢の変化等を踏まえ、今後のインフラツーリズムのさらなる拡大に向けて、提言(H31.3)で示された「将来的な取り組み」の具体化や見直しが必要

インフラツーリズムのさらなる拡大に向けて 提言(H31.3)より

5.2 将来的な取り組み

(1) インフラツーリズムのさらなる拡大

- モデル地区で得られた知見を様々な事業に展開し、インフラツーリズムの拡大を図ることが必要である。
- 来訪者数の増加やリピーターの確保に向けた満足度の向上のため、プレミアム感のある“今だけ・ここだけ・あなただけ”という施設の見せ方を工夫して行うべきである。
- ガイドの方法や内容の充実を図るべきである。特に、ガイドの育成方法は、他分野の先進事例も踏まえながら検討することが望まれる。
- 国内外にインフラツーリズムの魅力を発信していく必要がある。情報発信は、インフラツーリズムを周知する段階、現地へ案内する段階、リピーターを確保する段階などに分けて発信することが望まれる。
- 工事中、供用中等の各ライフステージ段階でインフラツーリズムを進めるべきである。

(2) 民間事業者の参入によるさらなる展開

- 土日の公開や受け入れ枠の拡大など、施設管理者だけでは対応が困難である課題に対し、地域と連携する枠組みや民間事業者の参入の仕組みを構築し対応していくことが望まれる。

(3) 地域とのさらなる連携強化

- 地域の観光資源としてインフラを活用するためには、インフラ自体の魅力を高めるとともに、インフラがその土地にある意義を含め関連する地域の歴史や地形など周辺観光資源と連携すべきである。
- 地域と連携して来訪者を地域に滞在させる仕組みをつくり、地域への経済波及効果を増大させていくことが望まれる。

2. インフラツーリズムのさらなる拡大に向けて

論点1. モデル地区の取組をさらに広げ、インフラツーリズムをさらに拡大させるための方策について

モデル地区の試行の振り返り

- ・コンテンツ造成やガイド整備を行うとともに、地域主体で取り組みがなされた地区が、令和4年度に4地区、今年度も3地区試行を終了。
- ・令和5年10月には、知見をまとめた「インフラツーリズムの手引き(改訂版)」を公表
- ・試行として実施した施設は、橋・ダム・放水路・砂防施設。また、地域としては、令和5年度から新たに北陸地方を加え、7ブロックで実施。
- ・モデル地区では、インフラの魅力が高まり、今後の来訪者の増大が期待。

試行上の課題

- ・ まだ実証されていないインフラ施設の分野や地域、テーマがあり、多様なモデルケースを創出することで、更なる拡大を期待。
- ・ インフラツーリズムの取組みは国の施設だけでなく、民間や都道府県施設でも実施。これまでモデル地区における取組は国のインフラが中心となっているが、都道府県等も含め、モデル地区以外の地区にインフラツーリズムの取組みを広く全国に拡大させるため、様々な方策を進める必要がある。

2. インフラツーリズムのさらなる拡大に向けて

論点1. モデル地区の取組をさらに広げ、インフラツーリズムをさらに拡大させるための方策について

今後の取り組み(案)

1. 新モデル地区を立ち上げ

○モデル地区が無い地域や取組案が挑戦的なものから、新たなモデル地区として立ち上げる等により、ノウハウの蓄積を図るとともに、インフラ来訪者の増加を目指す。

2. モデル地区等の模範的で優れたインフラツーリズム事例の水平展開

○インフラツーリズムの更なる拡大に向けて、手引きの活用促進だけでなく、モデル地区などにおける取り組みを水平展開させることが重要。水平展開の方策を検討する上で、以下に留意する必要。

- 観光資源となりうるポテンシャルを有するインフラが、インフラツーリズムに取り組むことで、地域への来訪者の増加を促すことができることを、地域に理解いただくこと
- 土日も含めてインフラ見学の機会を設定でき、国民や地域住民のインフラへの理解促進を図ることに加え、地域活性化の面でもインフラツーリズムが有効なツールとして認識してもらうこと。
- 国民それぞれの関心に沿った魅力的なインフラツーリズムをわかりやすく選ぶことができ、インフラツーリズムの関心・需要を一層高めるように仕掛けること

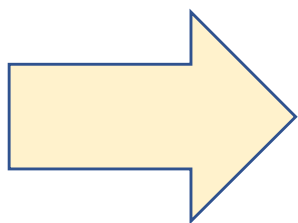
○そのため、国や都道府県など、様々なインフラ管理者により取り組まれるインフラツーリズムの中から、模範的で魅力があり、多くの国民に体験いただきたいインフラツーリズムをピックアップし広く周知することにより、インフラ管理者や地域が自発的に連携した取組みを促すことができ、魅力的なインフラツーリズムの拡大を図ることが可能ではないか。

2. インフラツーリズムのさらなる拡大・充実に向けて

論点2. 将来的な取り組みについて

モデル地区の取り組み等を得た知見、課題

- ・モデル地域でコンテンツ造成の過程では、ツアーやガイド等を担うための受け入れ体制構築に時間を要するなど、地域との連携やコンテンツ造成が円滑に進まない地区も存在する。
- ・そのような中、一般の観光客への施設単独の有料コンテンツだけでなく、教育旅行向けの有料のコンテンツ、地域の観光資源と連携したコンテンツなど、地域のニーズに応じたコンテンツを造成させることができた。
- ・モデル地域等既にインフラツーリズムを実施している地域においても、更なる来訪者の維持・増大に向けて、コンテンツの充実などの取組をすすめる必要がある。



モデル地区の取組や社会情勢の変化を踏まえ、インフラツーリズムのさらなる拡大・充実に向けて、インフラツーリズムの発展性や、拡大・充実を進めていく上での課題や今後インフラ管理者等が取り組むべき事項等について御意見をいただきたい

3. 今後の予定等について

3. 今後の予定等について

事業全体		R5	R6
インフラツールの全体の進め方		手引き更新 ★公表	手引きの普及の検討 普及の実践 広く周知する方法の検討 インフラツールのさらなる展開の検討
モデル地区		R5	R6
R5・7選定	戦略策定 体制構築・受入環境整備	戦略策定 体制構築	受入環境整備
	コンテンツ造成 ガイド整備	コンテンツ造成 ガイド整備	
	販路構築 情報発信		販路構築 情報発信
R6・3選定	モデル地区が無い地域や取組構想が挑戦的なものを選定し、実証実験を行う		1年程度での自走可を目指す

地域
主体の
ソアー
実施